

| カデンツァ |

CADENZA

石川県立音楽堂／オーケストラ・アンサンブル金沢 情報誌



OEKと出会う
クラシック音楽界の新潮流
インタビュー 漫画家 萩尾望都

OEK 定期公演聴きどころ

4~6月の定期公演の魅力をご紹介します! text by 戸部亮 (音楽評論家)

5.15
(木)

ファンタスティック・オーケストラコンサート Vol.3

グルダとストラヴィンスキー クラシックの枠から出た”ボーダレス”な組合せの妙を楽しむ

- 指揮: 川瀬賢太郎 ●語り: 桂木團治
- ピアノ: 角野隼斗 ●ドラム: 石若駿 ●ベース: マーティ・ホロベック

本公演、一見すると聴きどころは今を時めく角野隼斗が登場すること。確かにそうだ。しかしそれ以外でもこの公演は聴きどころがたっぷりある。

まずプログラミングが秀逸だ。ストラヴィンスキー「兵士の物語」、グルダ「コンチェルト・フォー・マイセルフ」で構成する他では見かけない構成。もはや録音でしか確認できないが、グルダのピアノは強靱なタッチ、立体的な脈動、それらをベースに曲のフレージングを血肉化させ伸縮自在に歌わせていく。驚くべき鬼才感。これがグルダが伝統に革新的な息吹を与え、グルダをグルダ足り得るものにしてきた。だからこそかもしれないが、彼の心のうちに宿っていた音楽のデーモンが湧き上がって、彼をジャズや作曲の世界に誘っていったのだろう。

2024年2月に井上道義との公演でもグルダ作品「チェロ協奏曲」を取り上げたが、それをトレスするかのように「コンチェルト・フォー・マイセルフ」がプログラミングされた。この作品はグルダの洒落っ気があ

ふれ、軽やかさが何とも言えぬワクワク感をもよおさせる。いいジャズ演奏を評する例としてインプロビゼーションあふれる演奏という言い方がある。まさにグルダの作品はそれであり、聴いているとクスッと笑ってしまうシーンや、面白さが目くるめく展開されていく。しかも変に押しつけがましさがなくて本当に心地よい。これが第一の聴きどころ。

もう一つの楽しみは「兵士の物語」。民族音楽、ジャズなど伝統音楽とストラヴィンスキーとしての新しい音楽の発見が併せ持って創作された同曲。それ自体でも面白いが、語りとして桂木團治が登場するのも見ものだ。桂木團治は過去にも「兵士の物語」の語りを経験しているが、彼自身がクラシック音楽に造詣深いので、きちんと間を意識して舞台を進めてくれる。本公演の聴きどころは実は表面的なところ以上にたっぷりある。

5.24
(土)

第493回定期公演フィルハーモニー・シリーズ 古楽の大家 鈴木秀美と奏でるオラトリオ「天地創造」 OEKで体験するハイドン演奏の新機軸

- 指揮: 鈴木秀美
- ソプラノ: 中江早希 ●テノール: 谷口洋介 ●バス: 氷見健一郎
- 合唱: コーロ・リベロ・クラシコ

現代のオーケストラで交響曲、合唱曲といったハイドン作品を取り上げるのは難しい。現代のオーケストラのサイズ、コンサートホール大きさ、演奏にかかわる時代考証など。楽譜を見れば難しさはあまり感じられないが考えれば考えるほど泥沼にハマっていく。しかも最も究極的なことは、ハイドン作品の演奏でワクワクする体験に巡り合うことが実は少ないことだ。ゆえに聴き手もハイドン作品目当てでコンサートを選ぶことは少ないように思える。

そんな中でも素晴らしいハイドン演奏はある。切れ味鋭く、楽しさが溢れるハイドンならば、現代ではサイモン・ラトルが指揮するハイドンが絶品だ。

一方で当時の演奏慣習や楽器などアカデミックな考証を踏まえた古くも新しいハイドン演奏を切り開いた1980年代から90年代のクリストファー・ホグウッド、ニコラウス・アーノンクール、フランス・プリュッヘンの録音も今こそ見直されるべきハイドンだ。現代基準からする

と演奏水準に不足感はある。しかしそれを上回って余りある、音楽的な「間」の取り方、テンポ設定、時に強烈なコントラスト、それらが三者三様の滋味あふれる偉大なハイドンを立ち上げさせる。

そう、ハイドンは面白いのだ。そして指揮者を選ぶ。ハイドンに選ばれる指揮者はよく研究して極めて高い知性があり、卓越した音楽センスの持ち主だ。今回のOEKは古くも新しいハイドンを作っていた指揮者世代と一緒に仕事をすることでハイドンを研究して、今その成果が十二分に発揮されている指揮者、鈴木秀美が登場。オラトリオ「天地創造」は今、日本で聴ける最高のオーセンティックなハイドンとなろう。

古楽のスペシャリストの合唱、コーロ・リベロ・クラシコも入り、いい演奏への条件はそろった。天地創造の「光あれ」という歌唱は石川県の、能登の復興の意志が込められるとともに、日本における記念碑的なハイドン演奏への扉を開くものとなるだろう。

オーケストラアンサンブル金沢
APR-JUN 2025



ストラヴィンスキー／兵士の物語 グルダ／コンチェルト・フォー・マイセルフ

コンサートホール
19:00開演 (18:00開場)
【全席指定】SS席 8,500円 / S席 7,500円 / A席 6,500円 / ビスタ席 4,500円 / 車椅子席 7,500円
*25歳以下公演前日より半額で予約可
*託児サービスあり

予定販売枚数終了



ハイドン／オラトリオ「天地創造」Hob. XXI-2

コンサートホール
14:00開演 (13:00開場)
【全席指定】SS席 6,000円 / S席 5,000円 / A席 4,000円 / ビスタ席 3,000円 / スターライト席 1,000円 / 車椅子席 5,000円
*25歳以下公演前日より半額で予約可
*託児サービスあり

6.21
(土)

第494回定期公演マイスター・シリーズ 作曲家ヴィトマンの世界。声の本質に迫るマクファデン登場。 OEKでしか聴くことのできない 指揮者・作曲家ヴィトマンを体験せよ

- 指揮: イェルク・ヴィトマン ●ソプラノ: クラロン・マクファデン
- ヴァイオリン: アビゲイル・ヤング (OEK第1コンサートマスター)
- オーボエ: 橋爪恵梨香 (OEKオーボエ奏者)

時代が進み、人間が日進月歩していくと仕事も趣味も考える要素が増えて複雑化していく。考えるべき要素が増えていけばいほど、一つのカテゴリーだったものが、次第に枝葉化していき、分節化していく。そしてそれぞれが個別分野で専門化されていく。

音楽界も作曲家、指揮者、楽器奏者、それぞれが専門化しているのが一般的だ。そんな中で現代の巨匠ハインツ・ホリガーはそれぞれの分野で一流。ただ時代を遡ると、バーンスタイン、マーラー、ベートーヴェン、モーツァルトと作曲家、演奏家としても当世で一級の評価を勝ち得るのが音楽家としてのロールモデルであった。

今風でいうと二刀流と言われるが、歴史的にみるとマルチな才能はクラシック音楽の伝統だ。その古きよき伝統を受け継ぐ現代の音楽家がイェルク・ヴィトマンだ。しかもホリガーのようにそれぞれの分野で一級の評価を受ける稀有な存在だ。

しかもヴィトマンはモーツァルトやベートーヴェンのように管弦楽曲、協奏曲、弦楽四重奏曲、声楽を伴った舞台作品といったいわゆる過去と大作曲家をなぞるような創作活動を続けている。だからこそヴィトマンは現代音楽界の期待を一身に担う存在足り得ている。

定期的にOEKに客演しているヴィトマン。今回は2023年の続編とも言うべきメンデルスゾーンと自作のプログラム。プログラミング自体、前回からの連続性あるストーリーを成立させるところにヴィトマンらしさ、OEKらしさがある。

そう、このここでしか体験できないもの。それこそが価値なのだ。価値を創出しつづけることは特別であり続けること、その土地でしか味わえない体験が味わえることだ。日本で音楽の中心地とみなされる東京でもこういうプログラミングでの演奏会はなかなかお目にかからない。この演奏会はOEKがOEKたることを象徴する辺境かもしれないが、世界の最先端、最も創造的で文化的な経験ができる特別な演奏会だ。



メンデルスゾーン／弦楽のための交響曲 第13番 ハ短調「交響的断章」 ヴィトマン／メンデルスゾーンの結婚行進曲による バラフレーズ (ヴァイオリン独奏) ヴィトマン／フーガの試み (ソプラノ、オーボエと室内オーケストラ版) メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二長調 「宗教改革」Op.107

コンサートホール
14:00開演 (13:00開場)
【全席指定】SS席 6,000円 / S席 5,000円 / A席 4,000円 / ビスタ席 3,000円 / スターライト席 1,000円 / 車椅子席 5,000円
*25歳以下公演前日より半額で予約可
*託児サービスあり

今号の

CLOSE-UP PEOPLE 音楽堂カルチャーナビ Vol.1

2020年代音楽シーンの新旗手・Yaffleが提案する 「新たな音楽の楽しみ方」

作曲家、音楽プロデューサーとして、ポップミュージックから映画音楽まで幅広い領域で活躍するYaffleが、石川県立音楽堂の名物企画「音楽堂カルチャーナビ」に初登場する。ポップミュージックとクラシック音楽が、20世紀にどのように発展し、交錯し、影響を与え合ったのか。その変遷を現代の音楽シーンの最前線に立つYaffleの視点で読み解いていく。このイベントは対談形式で行われ、聞き手はこの記事の筆者である八木宏之が務める。筆者はクラシック音楽のWebメディア「FREUDE」を主宰する音楽評論家で、高校生の頃からYaffleの創作活動を間近で見てきた。

これまでクラシック音楽とポップミュージックは個別のジャンルとして受容され、相互の影響が目されることはあまりなかった。とりわけ日本では、クラシック音楽のファンはクラシック音楽のみを、ポップミュージックのファンはポップミュージックのみを楽しむケースが多いだろう。しかし音楽史に目を向けると、ラヴェルがジャズのエッセンスを自作に取り入れていたり、ガーシュウィンはジャズとクラシックの融合を目指していたり、この半世紀を振り返ってみても、プログレッシブ・ロックやミニマル・ミュージック、ポストロックにポストクラシカルなど、クラシック音楽とポップミュージックの両面から語られる

べき潮流は数多い。そうした歴史を改めて紐解いてみることで、ジャンルにとらわれない音楽の楽しみ方を提案することがこの対談の狙いである。

2023年にリリースされたYaffleのアルバム『After the chaos』では、彼がこれまでに吸収してきたレディオヘッドやシガー・ロス、エルガー、ヴォーン・ウィリアムズらの作品が、彼自身の美意識を通して、新たな音楽語法を形作っている。Yaffleの音楽はクラシック音楽やポップミュージック、ジャズなどのジャンル分けが、今日においては意味をなさなくなっていることを私たちに教えてくれているのだ。対談のあとには石川県を拠点に活躍するヴァイオリニストの竹田樹莉果をゲストに迎え、Yaffleの作品の実演もお楽しみいただく予定だ。竹田はYaffleのレコーディングに数多く参加し、作曲家の音楽づくりを直に体験してきた演奏家である。Yaffleのピアノと竹田のヴァイオリンが織りなす2020年代の香りをどうかじっくりと味わって欲しい。



文=八木宏之 (音楽評論家)



4/9 [水] 19:00開演 (18:30開場) 交流ホール

音楽堂カルチャーナビ2025 Vol.1 ポップミュージック×クラシック現代音楽

- Yaffle (音楽プロデューサー)
- 八木宏之 (音楽評論家)
- 竹田樹莉果 (ヴァイオリニスト)

Yaffle氏、八木氏による対談 (Yaffle氏、竹田氏による演奏1曲程度あり)

【全席自由】1,000円
*託児サービスあり



ヴィトマン、角野隼斗、石若駿、マーティ・ホロベック —

OEKと出会うクラシック音楽の新潮流

5～6月のOEK定期は刺激的な2公演が予定されている。

5/15と6/21公演に共通するのはまさに「ボーダレス」と「多様性」。クラシック、ジャズ、現代音楽とジャンルを分ける時代は過ぎ、国境を越えて縦横無尽に活躍するアーティストが台頭してきたのが今。その最先端にいる“手練れ”がOEKと対峙するわけである。何が起こるか分からないワクワクを携えて、その瞬間をぜひ見逃さないでほしい。

text by 小室敬幸(音楽ライター)

JÖRG WIDMANN

©M Borggreve

MARTY HOLOUBEK

HAYATO SUMINO

©Ryuya Amao

SHUN ISHIWAKA

芸術(アート)は“自由”であると同時に、長きにわたって“不自由”な時代が続いた。何でも有りのように、結局のところ高評価されるのはそれぞれの時代における先鋭的な表現ばかり……。こじらせ過ぎた1950～70年代頃には特にそうした考え方が強く、分かりやすい楽曲は芸術とみなされなかった。しかしながら1980年代にもなると、先鋭性や新奇さを重視するモダニズム(近代主義)への疑念が高まり、いわゆるポストモダニズム(脱近代主義)が台頭。それまで軽んじられてきたサブカルチャーが真面目に取り扱われる機会が増え、ファインアート以外も大事にされる時代——つまり真の意味で自由な「多様性(ダイバーシティ)」の時代へと移り変わりはじめたのだ。

そうした時代に作曲されたのが5月15日に演奏される《コンチェルト・フォー・マイセルフ》(1988)である。フリードリヒ・グルダ(1930～2000)がバロック、古典派、ロマン派、ジャズ、ロック、ラテンと多様な音楽スタイルを融合させたピアノ協奏曲だ。グルダは

クラシックの王道を得意とするピアニスト。また同時に、一流ジャズミュージシャンとも共演を重ねたジャズピアニストだった……が、ジャズの熱心なファンから支持されたとは言い難く、楽曲は分かりやすくて作曲家として真面目に評価されなかった。けれども今なら多様なジャンルにまたがって高く評価されるミュージシャンが存在している。ソリストを務める角野隼斗、石若駿、マーティ・ホロベックがまさにそうだ! 彼らの演奏によって即興要素の多い楽曲は現代的な感覚

をもって蘇り、作曲家グルダが「多様性」を先取りしていたことが明らかになるに違いない。

そして6月21日にも「多様性」を体現したイェルク・ヴィトマン(1973～)が再びOEKにやってくる。一流のクラリネット奏者としても知られるヴィトマンだが、今回は作曲と指揮に専念。作曲家としてはバロック、古典派、ロマン派の“古い”スタイルと、先鋭的な現代音楽の“新しい”サウンドを融合させ、難解過ぎ

て取り付く島もないというわけでもなければ、単純に心地よいだけでもない、刺激的な音楽を作曲している。プログラムは、ヴィトマンのように“古さ”と“新しさ”を作品内に両立させたバッハとメンデルスゾーンへのオマージュになっているのにも注目! 特にヴィトマンがベルリンフィルでも指揮したほど偏愛するメンデルスゾーンの交響曲第5番《宗教改革》は必聴だ。

5/15公演は予定販売枚数終了。6/21はチケット好評発売中!

コンサートホール

5/15 [木] 19:00開演(18:00開場)

ファンタスティック・オーケストラコンサート Vol.3

- 指揮:川瀬賢太郎
- 語り:桂米團治
- ピアノ:角野隼斗
- ドラム:石若駿
- ベース:マーティ・ホロベック

ストラヴィンスキー/兵士の物語
グルダ/コンチェルト・フォー・マイセルフ

【全席指定】
SS席 8,500円 / S席 7,500円
A席 6,500円 / ビスタ席 4,500円
車椅子席 7,500円

*25歳以下公演
前日より半額で予約可
*託児サービスあり

予定販売枚数終了

コンサートホール

6/21 [土] 14:00開演(13:00開場)

第494回定期公演
マイスター・シリーズ
作曲家ヴィトマンの世界
声の本質に迫るマクファデン登場。

- 指揮:イェルク・ヴィトマン
- ソプラノ:クラロン・マクファデン
- ヴァイオリン:アビゲイル・ヤング
(OEK第1コンサートマスター)
- オーボエ:橋爪恵梨香
(OEKオーボエ奏者)

メンデルスゾーン/
弦楽のための交響曲 第13番
八短調「交響的断章」
ヴィトマン/
メンデルスゾーンの結婚行進曲による
パラフレーズ(ヴァイオリン独奏)
ヴィトマン/フーガの試み
(ソプラノ、オーボエと室内オーケストラ版)
メンデルスゾーン/
交響曲 第5番 二長調「宗教改革」op.107

【全席指定】SS席 6,000円 / S席 5,000円
A席 4,000円 / ビスタ席 3,000円
スターライト席 1,000円 / 車椅子席 5,000円

*25歳以下公演前日より半額で予約可
*託児サービスあり

第23回北陸新人登竜門コンサート《弦管打部門》

優秀賞受賞の俊英たちが語るコンサートへの想い

オーケストラ・アンサンブル金沢では、北陸にゆかりのある新人演奏家の発掘と支援を目的とした「北陸新人登竜門コンサート」を毎年開催し、若きソリストと共演しています。この度、そのソリストを決めるオーディションが行われ、4名が優秀者として選ばれました。5月のコンサートに臨む意気込みをお聞きましたので、当日は地域から羽ばたく若い才能に客席からエールを送りましょう!



SOYOKA TANAKA

田中そよ香

クラリネット

北陸新人登竜門コンサートへの出演が決まり、大変嬉しく思います。オーケストラ・アンサンブル金沢の皆様は、私にとっての憧れであり、何度も拝聴することを通して音楽の道に進みたいと思っかけを与えてくださいました。今回共演させていただけることが夢のようで、とても光栄です。ウェーバーのクラリネット協奏曲第1番は、クラリネットの音色と技巧を豊かに表現した作品です。3つの楽章を通して、歌劇「魔弾の射手」を彷彿とさせる壮大さ、叙情豊かで美しい旋律、躍動感と多彩な響きが特徴です。オーケストラとの掛け合いを楽しみながら、ご来場くださる皆さま、これまでご指導いただいた先生方へ感謝の気持ちを込めて演奏いたします。

Profile:

富山県出身。富山県立呉羽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。第15回大阪国際音楽コンクールAge-jエスポワール賞。第32、36回富山県青少年音楽コンクール管打楽器部門最優秀賞及び富山県芸術文化協会長賞。第31回名古屋クラリネットソロコンテスト最優秀賞及びグランプリ。第79回東京国際芸術協会新人演奏会オーディションにて優秀新人賞、同演奏会に出演。第42回富山県新人演奏会にて富山県知事賞及び北日本新聞音楽奨励賞。これまでにクラリネットを鈴木昌季、大浦綾子、藤井一男、高子由佳、サトミチヨ、三井秀実の各氏に師事。室内楽を吉井瑞穂、齋藤雄介、西川智也、岡本正之、木川博史、日高剛、萩原麻未の各氏に師事。

サクソフォン

今回演奏する曲はサクソ奏者にとっては誰もが知っている曲の一つです。よく入試の課題曲としても取り上げられて、私自身も大学受験の頃にたくさん練習した曲もあり、とても思い出があります。大学の集大成となる今年、このような素晴らしい機会をいただき、大変嬉しく思います。ご指導していただいた先生方、近くで見守り続けてくれた家族、応援して下さった皆様に感謝の気持ちを込めて精一杯演奏いたします!

Profile:

富山県高岡市出身。富山県立大門高等学校普通科卒業。第38回富山県青少年音楽コンクール最優秀賞・青少年音楽大賞受賞。第4回Kグランプリコンクール優秀賞。第24回大阪国際音楽コンクールアンサンブル部門でエスポワール賞。これまでにサクソフォンを谷道実子、松井宏幸、田中靖人、有村純親、住谷美帆の各氏に、室内楽を神保佳祐、小山弦太郎、松原季政の各氏に師事。現在、昭和音楽大学弦管・打楽器演奏家コース4年次に特待生として在学中。



HANA KANEBA

小森佳奈

ヴァイオリン



KANA KOMORI

今回演奏いたしますヘブライ組曲は、ユダヤ人である作曲家ブロッホのアイデンティティーが詰まった一大叙事詩です。彼はユダヤの民族性を音楽で表現することに生涯を懸けました。そのブロッホが自らの民族と言語の呼称である「ヘブライ」を冠した作品をヴァイオリンに託してくれた意味を噛み締めて、この舞台に立ちたいと思います。

この度はアンサンブル金沢さん、角田先生と共演させていただき大変光栄に存じます。学生時代にお世話になった北陸の皆様にもこの曲の管弦打楽器フルパワーの迫力を味わっていただきたく、また少しでも北陸への恩返しとなりますよう精一杯努めたいと思います。

Profile:

愛知県立芸術大学卒業。桐朋学園大学院大学修士課程修了。桐朋オーケストラ・アカデミー卒業。ヴェローナ楽友協会国際コンクール2024ファイナリスト(イタリアにて)、ロイヤルマース国際コンクールヴァイオリン部門第1位、琴科音楽祭賞、他受賞多数。円光寺雅彦指揮桐朋アカデミーオーケストラと共演。アンサンブル金沢、N響、神奈川フィル、新日フィル、九州交響楽団他日本各地のオーケストラに賛助出演。磯村和英、店村眞積、百武由紀、鈴木学、安藤裕子、ヤニス・リバルディスの各氏に師事。宗次徳二奨学金奨励学生。

狭間萌花

バス・トロンボーン



MOEKA HAZAMA

この度は北陸新人登竜門コンサートに出演させていただけること、大変光栄に存じます。トム・リッター・ジョージのコンチェルトは表情や色彩感が流動的です。面白みを最大限に引き出し、曲の様々な顔をお楽しみいただければ幸いです。また、あたたかく響きのある音色をもつバス・トロンボーンの魅力をお届けいたします。普段はオーケストラの中で演奏することが多いのですが、ソリストとして、オーケストラと共演させていただくことは初めてでとても楽しみにしております。アンサンブル金沢さんへの憧れは大きく、その分緊張も大きいですが、大好きな曲で共演させていただける幸せを噛み締め、全力で演奏いたします。

Profile:

富山県出身。県立呉羽高等学校普通科卒業。国立音楽大学を首席で卒業。弦管打楽器ソリストコース修了。卒業時に武岡賞を受賞。同大学の卒業演奏会、第38回ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程を修了。第18回関西トロンボーン協会コンクール成人ソロ部門第2位。第3回静岡トロンボーンコンクール専門部門第3位。第7回名古屋トロンボーンコンペティション オークストラスタディ部門第1位。第8回日本トロンボーンコンペティション独奏部門一般の部第1位。これまでにトロンボーンを廣瀬大悟、黒金寛行、小田桐寛之の各氏に師事。現在、国立音楽大学非常勤講師、桐朋学園大学専任演奏員。またブリーのバス・トロンボーン奏者として演奏活動をしている。

5/18 [日] 15:00開演 (14:00開場)

コンサートホール

第23回北陸新人登竜門コンサート《弦管打楽器部門》

- 指揮: 角田鋼亮
- クラリネット: 田中そよ香
- ヴァイオリン: 小森佳奈
- サクソフォン: 金場葉菜
- バス・トロンボーン: 狭間萌花
- ウェーバー/クラリネット協奏曲 第1番 へ短調 作品73
- ブロッホ/ヘブライ組曲
- グラスノフ/サクソフォン協奏曲 変ホ長調
- リッター・ジョージ/バス・トロンボーン協奏曲

【全席自由】一般 1,000円 / 大学生以下 500円 (要学生証)

PICKUP

Interview: Mansai Nomura

「萬斎のDENGEIラボ」邯鄲—KANTAN—

音楽堂アーティスティック・クリエイティブ・ディレクター 野村萬斎・インタビュー

ハムレットと芥川の要素も加わったまったく新しい「邯鄲」に注目



『能楽現在形 劇場版@世田谷』『邯鄲』より

“野村萬斎が伝統芸能をアップデートする”シリーズ「DENGEIラボ」。第3弾では能「邯鄲」を題材とする。氏はシェイクスピアの名作「ハムレット」との共通項を見出した。

「主人公の廬生もハムレットも一生をどう生きるのかと思悩むという意味では共通している二人。今回は、ハムレットでおなじみの台詞から始めてみようと思います」

夢に登場する宮廷のシーンでは狂言「唐人相撲」(日本人力士が唐の皇帝と相撲をとる)の要素を加えた華やかな演出を試みる。今回の舞台は邦楽ホール。これまで以上に演劇的な見せ方も意識しているという。

さらに、「邯鄲」と同じく中国の古典「枕中記」に想を得た芥川龍之介の短編

「黄粱夢」も取り入れる。

「若い人には夢を見ることは大事なんだという希望を与え、年齢を重ねた人には、若い頃に思い描いていた夢を思い返し、現実を思う時間になるのでは」

ハムレット&邯鄲&芥川。まったく新しい組み合わせのようだが実は共通項の多い3つが、今回初めて一つになる。廬生を演じるのは前回の「平家物語」に引き続き、観世流能楽師の片山九郎右衛門さん。

「役が憑依するほど高い熱量で演じてくださる役者さんだと思っています。要となる栄華の光景と、夢が覚める時の落差を魅力的に表現してくれることに期待したいですね」



野村萬斎

6/21 [土] 邦楽ホール

昼の部 13:00開演 (12:30開場)
夜の部 17:00開演 (16:30開場)

「萬斎のDENGEIラボ」邯鄲—KANTAN—

- シテ廬生: 片山九郎右衛門
- 宿の主: 野村萬斎
- 青年: 野村裕基 ほか
- 笛: 江野 泉
- 小鼓: 成田達志
- 大鼓: 飯嶋六ノ佐
- 太鼓: 前川光範
- 胡弓: 村澤文児

【全席指定】5,000円 4/20 発売開始



▼能「邯鄲」あらすじ

人生に迷い、悟りを得ようと旅する青年・廬生が、旅先の宿主に一生を夢見るという仙人の枕を貸し出され、粟のごはんが炊きあがるまでひとりで眠ること。すると寝ている廬生を起こしに皇帝の使いがやってくる。やがて廬生は皇帝となり、栄華をほしいままにする。在位50年の祝宴の途中で、宿主から「粟のごはんが炊けた」と起こされた廬生は目を覚まし、すべてが夢であったことに気づく。



片山九郎右衛門

野村裕基

音楽ジャーナリスト・潮博恵が誘う

ガルガンチュア音楽祭

Gargantua Music Festival 2025



音楽祭イメージキャラクター
ガルガンチュア

世界をつなぐ ハーモニー

♪ 今年のテーマは「世界をつなぐハーモニー」。大阪万博にちなんで5つのミュージック・パビリオンがオープンし、もてなしドーム地下広場では「NOTOパビリオン」が能登を応援するステージを展開。出演も地元のOEKはもちろん、デンマーク国立フィルハーモニー管弦楽団やヴァイオリンの巨匠ピンカス・ズーカーマンから期待の若手まで多彩な顔ぶれが揃う。

「世界」の多様な音楽が会場のあちこちで鳴り響く今年は、それぞれの音楽が異なる背景のもと独自の個性を發揮しながら、全体として見ると一つの「ハーモニー(=調和)」になっていることをぜひ身体で感じていただきたい。だから普段の自分を越えて様々なタイプの公演に足を運ぶことをおすすめする。

おすすめ その1 ベトナム国立交響楽団

5/4 [日祝] 16:40~17:30

C43 エル＝バジャ×ベートーヴェン
ピアノ協奏曲第5番「皇帝」ほか3公演

●共演: アブデル・ラーマン・エル＝バジャ (Pf), 本名徹次 (指揮)
会場: 石川県立音楽堂コンサートホール

2001年から育てられてきた指揮者・本名徹次のパートナーシップは度々テレビ番組でも取り上げられてきたが、彼らの実演に接する貴重な機会。ピアノの名手エル＝バジャを迎えてベートーヴェンの「皇帝」などの王道プログラム、映画音楽特集と公演ごとに趣向がガラリと変わるのも楽しい。さらに同楽団は、作曲家自身の指揮による佐藤真

「土の歌」の合唱の公演でも大活躍する。また千年の歴史を持つ一絃琴(ダン・バウ)の独奏が加わるベトナム音楽のプログラムも大注目。日本の琴とどこが違うのか? 琴という楽器がアジア各地で異なる発展を遂げていった歴史的側面や、伝統楽器とオーケストラをどのように融合させているかという観点からも興味深い。

ベトナム国立交響楽団の公演はこちら▶



おすすめ その2 東京楽所(雅楽)

5/3 [土祝] 14:00~14:50

H32 世界最古のオーケストラ! 時を超える雅楽

●共演: 野原耕二(音楽プロデューサー)、廣田真希(Vn)
会場: 石川県立音楽堂邦楽ホール

今雅楽がアツい! というのも、エミー賞受賞などで話題になった真田広之主演のドラマ「SHOGUN 将軍」の音楽で雅楽のサウンドが印象的に用いられ、その宇宙的な響きが多くの人を魅了したからだ。だから今雅楽を生で体験できることは実にタイムリー。

ちょうどWebの「ほぼ日刊イトイ新聞」でも雅楽のところが面白いのかについて特集していたし、尺八奏者・中村明一の著書「日本音楽の構造」(アルテスパブリッシング)でも日本の伝統音楽が持つ目から鱗の特徴が紹介されている。よって事前にこれらの情報をチェックしておけば、公演を10倍楽しめること間違いなし。

ご紹介があった「ほぼ日刊イトイ新聞」雅楽特集はこちら▶



Artist meets Kanazawa craft
金沢百番街

石川県立音楽堂

創作の基本は妄想
音楽に導かれ
父母の若き日を思う



撮影協力: FILFIL CACAO FACTORY
加賀棒茶 45% ミルクチョコレート ~PROMENADE~

漫画家 萩尾望都

私、チョコレートには目がないんです。仕事をちょっと一休みする時に、お茶と一緒にいただきます。旅行のお供もチョコです。

今回いただいたチョコは、加賀棒茶のミルクチョコに白山市のソバの実が散らしてあるとのこと。ソバの実って白いんですね。九谷の柄の包装はデザインも色もきれいで、次に旅に出る時には持ってみたいです。

金沢には20代のはじめに坂田ちゃん(漫画家の坂田靖子さん)のお宅を訪ねて以来、何度もお伺いしています。駅を降りると能楽の像があったり、「お三味線教えます」という看板があったりして、文化的なまちの雰囲気を感じました。金箔や輪島塗、九谷焼もあり、ゴージャスな印象があります。

卯辰山にあった水族館では不思議な出会いもありました。小さな生き物が砂の中から何匹もぐーっと出たり入ったりするのが面白くて。ずっと見ていました。あれはチンアナゴかしら。坂田ちゃんの家で図鑑も見ました。

坂田ちゃんや花郁悠紀子さん(金沢出身の漫画家、1980年死去)にアシスタントをしていただいたのは青春の一時期です。金沢とのつながりを感じています。

3月10日の石川県立音楽堂の公演では、私の作品を青島広志先生が音楽にして演奏してくださいました。どれも面白いですが、特に「月夜のバイオリン」は若い女性と父の若い頃のフレーズがデュエットしているようで、この旋律を聞くと父と母にも若い頃があったのかと、はっと気付くんです。音楽ってすごいですね。漫画という文化の周辺に青島先生のような方がいて、音楽の方に導いてくださると、広がりがあって大変ありがたいです。

私の創作の基本は妄想、想像力、好奇心。いろいろと想像したり、考えたりしていると退屈しないんです。再開した「ポーの一族」の連載はまだほんのちょっとエピソードがあるので、もう少し書かせていただきますね。

Profile
萩尾望都(はぎおもと)
1949年5月12日生まれ。福岡県大牟田市出身。1969年「ルルとミミ」でデビュー。代表作「ポーの一族」「トーマの心臓」「11人いる!」「なのはな」等。1976年「ポーの一族」「11人いる!」で第21回小学館漫画賞、1997年「残酷な神が支配する」で第1回手塚治虫文化賞マンガ優秀賞、2006年「バルバラ異界」で第27回日本SF大賞、2011年日本漫画家協会賞・文部科学大臣賞、ほか受賞多数。2012年には少女漫画家として初の紫綬褒章を受章。2017年朝日賞を受賞。2019年文化功労者に選出。2022年旭日中綬章を受章。2022年アイズナー賞でコミックの殿堂(The Comic Industry's Hall of Fame)入り。2024年アンブレム国際漫画祭で特別栄誉賞を受賞、日本芸術院会員となる。2016年に40年ぶりの「ポーの一族」新作発表以来、現在も月刊flowers誌にて「ポーの一族」を連載中。

SHOP INFO
FILFIL CACAO FACTORY
by FIL D'OR
石川県金沢市木ノ新保町1-1
金沢百番街「あん」と内
TEL 080-7898-6927
〈営業時間〉8:30~20:00 〈定休日〉不定休

ガルガンチュア音楽祭2025 4/27 [日] ~ 5/5 [月祝] <https://www.gargan.jp/>
「世界をつなぐハーモニー」
石川県立音楽堂 / 金沢市アートホール / 北陸新聞赤羽ホール / 北陸エリア
【チケット申込】ガルガンチュア音楽祭チケットカウンター TEL. 076-232-8118 (10:00~18:00)



石川県立音楽堂主催 & OEK公演スケジュール 4月～6月

※都合により内容に変更が生じる場合がございます。
 25歳以下の方当日券半額(前日予約可)

安 1,000円以下で入場できる公演
 託 託児サービスあり(有料:要事前申込み)

4.9 [水] 19:00開演(18:30開場)
 交流ホール

音楽堂カルチャーナビ2025 Vol.1
 ポップミュージック
 ×クラシック現代音楽



●出演: Yaffie(音楽プロデューサー)
 八木宏之(音楽評論家)
 竹田樹莉果(ヴァイオリニスト)
 Yaffie氏、八木氏による対談
 (Yaffie氏、竹田氏による演奏1曲程度あり)
 【全席自由】1,000円

4.11 [金] 19:00開演(18:30開場)
 コンサートホール

ガルガンチュア音楽祭
 ガルガンチュア・ライジングスター
 ～未来へのチャレンジ～



●指揮: 松井慶太(OEKコンダクター)
 ●ヴァイオリン: 永野都季、寺田晴香
 ●ピアノ: 滝澤ひまり、早瀬ひまり、
 松原遙音、中村陽葵

●管弦楽: オークストラ・アンサンブル金沢
 ラロ/スペイン交響曲 第1楽章
 ヴィエニャフスキ/ヴァイオリン協奏曲
 第2番 第1楽章
 モーツァルト/ピアノ協奏曲 第9番 第1楽章
 ピアノ協奏曲 第12番 第1楽章
 シューマン/ピアノ協奏曲 第1楽章
 ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第3番 第1楽章
 【全席自由】2,000円
 高校生以下 1,000円/3歳以上入場可
 (チケット申込)
 ガルガンチュア音楽祭チケットカウンター
 076-232-8118

4.29 [火祝] 13:45開演(13:00開場)
 コンサートホール

ガルガンチュア音楽祭
 オープニングコンサート



●指揮: 山下一史
 ●管弦楽: オークストラ・アンサンブル金沢
 ガルガン・アンサンブル
 いよいよ開幕・ガルガンチュア音楽祭2025!
 世界から金沢に豪華アーティスト集結♪
 「世界をつなぐハーモニー」ここから始まる!
 【全席指定】S席 3,500円/A席 2,500円
 高校生以下 500円引き
 (チケット申込)
 ガルガンチュア音楽祭チケットカウンター
 076-232-8118

5.3 [土祝]～5.5 [月祝]
 コンサートホール



音楽祭
 イメージキャラクター
 ガルガンチュア

5.10 [土] 14:00開演(13:15開場)
 コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢
 『スキップとローファー』
 能登復興支援オーケストラコンサート
 この日だけの演奏実現!

●指揮: 柴田真郁
 ●ゲスト:
 江越彬紀(声優)
 能登麻美子(声優)

TVアニメ
 「スキップとローファー」
 より
 【全席指定】S席 8,000円/A席 6,000円
 ※収益の一部は音楽による被災地の復興支援に充てられます。
 ※都合により内容に変更が生じる場合がございます。

5.15 [木] 19:00開演(18:00開場)
 コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢
 ファンタスティック・オーケストラコンサート



●指揮: 川瀬賢太郎
 (OEKバーマネット・コンダクター)
 ●語り: 桂米園治
 ●ピアノ: 角野隼斗
 ●ドラム: 石若駿
 ●ベース: マーティ・ホロベック
 ストラヴィンスキー/兵士の物語
 グルダ/コンチェルト・フォー・マイセルフ
 【全席指定】SS席 8,500円/S席 7,500円
 A席 6,500円/ビスタ席 4,500円
 車椅子席 7,500円 ※予定販売終了

5.18 [日] 15:00開演(14:00開場)
 コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢
 第23回北陸新人登竜門
 コンサート(弦管打楽器部門)



●指揮: 角田鋼亮
 ●クラリネット: 田中そよ香
 ●ヴィオラ: 小森佳奈
 ●サクソフォン: 金場葉菜
 ●バス・トロンボーン: 狭間萌花
 ウェバー/クラリネット協奏曲 第1番短調
 ブロッフ/ヘプタイ組曲
 グラズノフ/サクソフォン協奏曲 変ホ長調
 リッター・ジョージ/バス・トロンボーン協奏曲
 【全席自由】一般 1,000円
 大学生以下 500円(要学生証)

5.24 [土] 14:00開演(13:00開場)
 コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢
 第493回定期公演
 フィルハーモニー・シリーズ
 ハイドン演奏の大家 鈴木秀美と
 奏でるオラトリオ「天地創造」



●指揮: 鈴木秀美
 ●ソプラノ: 中江早希
 ●テノール: 谷口洋介
 ●バス: 氷見健一郎
 ●合唱: コーロ・リベロ・クラシコ
 ハイドン/オラトリオ「天地創造」Hob. XXI-2
 【全席指定】SS席 6,000円/S席 5,000円
 A席 4,000円/ビスタ席 3,000円
 スターライト席 1,000円/車椅子席 5,000円

6.21 [土] 14:00開演(13:00開場)
 コンサートホール

オーケストラ・アンサンブル金沢
 第494回定期公演マイスター・シリーズ
 作曲家ヴァイトマンの世界。
 声の本質に迫るマクファデン登場



●指揮: イェルク・ヴァイトマン
 ●ソプラノ: クラロン・マクファデン
 ●ヴァイオリン: アビゲイル・ヤング
 (OEK第1コンサートマスター)
 ●オーボエ: 橋爪恵梨香(OEKオーボエ奏者)
 メンデルスゾーン/弦楽のための交響曲
 第13番 八短調「交響的断章」
 ヴァイトマン/メンデルスゾーンの
 結婚行進曲によるパラフレーズ
 ヴァイトマン/フーガの試み(ソプラノ、オーボエと
 室内オーケストラ版)
 メンデルスゾーン/交響曲 第5番 二長調
 「宗教改革」
 【全席指定】SS席 6,000円/S席 5,000円
 A席 4,000円/ビスタ席 3,000円
 スターライト席 1,000円/車椅子席 5,000円

オーケストラ・アンサンブル金沢
 石川県立音楽堂以外の公演

ガルガンチュア音楽祭
 復興応援コンサート



●指揮: 齋藤友香理 ●ヴァイオリン: 辻彩奈
 池辺 善一郎/祈り、そして光
 プラムス/ヴァイオリン協奏曲
 ベートーヴェン/交響曲第7番
 (問合せ) オークストラ・アンサンブル金沢
 TEL 076-232-0171

4.5 [土] 14:00開演(13:30開場)
 内灘公演

【全席自由】一般 1,000円/高校生以下無料(要整理券)
 (会場) 内灘町文化会館

4.6 [日] 14:00開演(13:30開場)
 珠洲公演

【全席自由】一般 1,000円/珠洲市民無料
 (会場) ラボルトすず
 整理券のお取り扱い:
 ラボルトすず TEL 0768-82-8200

豪華出演陣による夢の舞台を堪能! 石川県立音楽堂 邦友会 会員募集

わずかな会費でチケット優先予約・割引など邦楽ファンをサポート!
 音楽堂邦楽関連の主催公演について、様々な特典があります。

特典1 チケットの先行予約
 邦友会対象公演について、一般発売に先駆け、前日に
 お一人様2枚まで先行予約できます。

特典2 チケットの割引
 ・邦友会対象公演について、10%割引でご購入いただけます。
 ・邦楽関係以外の音楽堂主催公演を割引価格でご購入いただけます。

(2025年度 邦友会会員割引対象公演)

2025年	2026年
6/21(土) 萬斎の伝統芸能ラボ	1/24(土) 新春 萬斎の芸能玉手箱
7/21(月) 音楽堂リサイタルシリーズvol.5	2/11(水祝) 和洋の響VI
8/9(土) 邦楽と舞踊の会	3/21(土) 伝統芸能とオペラシリーズ
8/24(日) 音楽堂リサイタルシリーズvol.6	
10/18(土) 萬斎のおもちゃ箱	
11/3(月祝) 音楽堂リサイタルシリーズvol.7	
12/19(金) 友枝昭世能「清経 音取」	
12/24(水) 25(木) ステージアートの世界	

※上記の対象公演は変更になる場合がございます。

特典3 邦友会通信などの送付サービス
 邦友会通信、コンサートガイド、公演チラシを随時お送りいたします。

特典4 提携ショップサービス
 ANAクラウンプラザホテル(レストラン)・音楽堂内託児所で 優待サービスを受けることができます。 ※要会員登録

年会費 一般会員 2,000円 / 家族会員 1,000円 (一般会員の同一住所のご家族様)

お申込み・お問合せ 石川県立音楽堂 邦友会係
 TEL 076-232-3403 / FAX 076-232-8101 E-MAIL hall@oek.jp

入会日～2026年3月31日まで有効

オーケストラ・アンサンブル金沢 ～和洋の響VI～ 「能舞とオーケストラ」作品(新曲)募集

若手作曲家の方々を対象として演奏作品を募集致します。
 採用された作品は、オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏により、広く国内外に発信されます。
 新たな文化が生まれる瞬間に相応しい、皆様の作品のご応募をお待ちしております。

(参加資格) 40歳以下(公演日当日の年齢)で、作曲を学んでいる方
 (応募方法) 所定の申込書に必要事項を記入し、提出物とともに下記へ送付ください。
 申込書は当団ウェブサイトよりダウンロードできます
 http://www.oek.jp/news/wayo2025
 (受付期間) 2025年9月1日(月)～9月30日(火) 必着
 (作品内容) ・能舞と合わせることが可能な、邦楽器を取り入れた
 オーケストラ作品(形式自由)
 ・未発表の新曲であること
 (演奏時間) 7分程度とする
 (提出物) 所定の申込書、スコア(印刷されたもの2部)、デモ音源(CD)
 (編成) オーケストラ・アンサンブル金沢が演奏可能な下記の編成とする
 最大編成: 弦楽器8型、管楽器2222-2200、
 ティンパニ(打楽器兼務可)1、打楽器1
 (審査委員) ・審査委員長 池辺善一郎(作曲家、石川県立音楽堂洋楽監督)
 ・審査員 角田鋼亮(初演指揮者)
 (作品発表) 2026年2月11日(水・祝) 14:00開演 金沢歌劇座
 ・指揮 角田鋼亮・管弦楽 オークストラ・アンサンブル金沢
 (採用謝礼) 10万円
 ※詳細は当団ウェブサイトをご確認ください。(2025年4月1日より公開)

主催・申込み・問合せ先
 (公財)石川県音楽文化振興事業団
 「和洋の響」新曲募集係
 〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1
 TEL 076-232-0171 E-MAIL office@oek.jp
 https://www.oek.jp/news/wayo2025

NEWS

祝

広上 淳一 OEKアーティストック・リーダー

令和6年度 芸術選奨文部科学大臣賞 受賞 (芸術振興部門)

〈贈賞理由〉

オーケストラ・アンサンブル金沢のアーティストック・リーダー広上淳一氏は、避難所、病院、小学校、交流施設、道の駅など、被災者の日常に音楽を届ける活動を被災後ただちに展開。こうした訪問コンサートを今後も「5年、10年のスパンで続ける」としている。本活動では、地域に根ざして育まれてきた文化が、実質的に芸術家と市民が双方向で支えあう円環を形成しており、共生社会における今後の芸術文化活動の展開に多くの示唆を与えるものとなっている。

私の様な者をこのように評価していただき、
光栄と同時に恐縮しております。

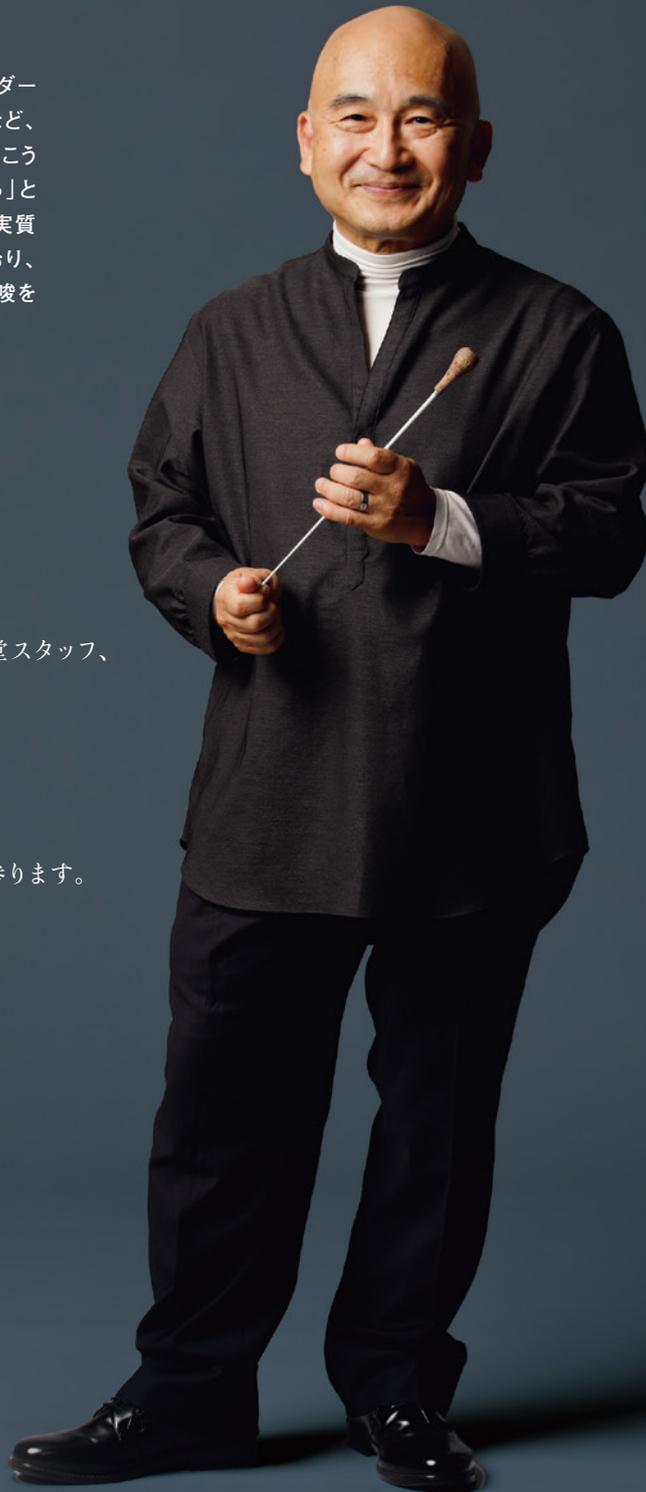
この受賞は、石川県音楽文化振興事業団、音楽堂スタッフ、
そして、オーケストラ・アンサンブル金沢の仲間達と
共に受賞した、と思っています。

地震と豪雨災害という未曾有の被害にあった
能登の人々に、音楽で心の支えの活動を続けて参ります。
微熱の愛を仲間と注ぎ続けたいと思います。

ありがとうございました。

オーケストラ・アンサンブル金沢 アーティストック・リーダー

広上 淳一



石川県立音楽堂 オーケストラ・アンサンブル金沢

チケットのお求め

石川県立音楽堂チケットボックス (石川県立音楽堂1F) TEL 076-232-8632 (窓口) 9時~19時 (電話) 10時~18時

(公財)石川県音楽文化振興事業団 石川県金沢市昭和町20-1 TEL 076-232-8111
アクセス: JR北陸線 金沢駅兼六園口(東口)徒歩1分 / 北鉄バス 金沢駅下車

石川県立音楽堂HP

<https://www.ongakudo.jp>



オーケストラ・アンサンブル金沢HP

<https://www.oek.jp>

